



穀物世界最大メジャー

カーギル社と高嶋康豪博士との関係

Relationship between Cargill, Inc. and Dr. Yasuhide Takashima

●カーギル社とは...

カーギル社は、1868年の創立以来今日に至るまで、常に世界の穀物市場を事実上支配してきた世界No.1のメジャー企業です。その力たるや、独自の衛星を駆使し、世界の陸地を平方単位で区割りして監視することにより世界情勢をライブでキャッチすることが可能であるとされ、湾岸戦争、アフガン戦争、そして最近のイラク戦争に至るまでのすべてのアメリカ主導の戦争時においては、アメリカ国防省（通称「ペンタゴン」）はカーギル社から情報提供を受けていたと言われています。

- カーギル社（Cargill, Inc.）の概要 -

■ 事業内容：

- ・ 穀物取引、貿易
- ・ 農産物取引
- ・ 畜肉、農産加工
- ・ でんぷん、異性化糖、クエン酸、エタノール
- ・ 海運
- ・ 金融
- ・ 製塩、製鋼

■ 社長：

アーネスト・S・マイセック (Ernest S Micek) 氏

■ 本社：

ミネソタ州ミネアポリス

■ 売上高：

USD\$ 60 bil.弱（約7兆2千億円、同社は非公開会社のため推定）

■ 従業員数：

約79,000人





●カーギル社幹部と高嶋博士とのファーストコンタクト

■ファーストコンタクトまでの経緯

高嶋博士のアメリカでの反人権コミッションナーであるポール・モウ氏は、高嶋博士の科学技術の優秀さをその哲学に感銘を受け、これをアメリカへ普及させたい。彼のあらゆる人脈を活用し、積極的な活動を行っておりました。「博士の科学技術、哲学のスケールの壮大さに見合う企業は限られてくる。それらの企業と博士をジョイントさせることこそが己の使命である。」博士との最初の出会いの際、こう悟ったポール氏は、全米、全世界を代表するメジャー企業にターゲットを絞り、博士と彼らとの接点をもたせようと精力的に動きまわりました。

■運命の出会い

2001年8月15日、快晴のミネソタ州ミネアポリス、この日、高嶋博士は、穀物世界最大メジャー企業、カーギル社本社の特別応接室へ招かれました。そこで博士を迎えたのは、カーギル社常務取締役フランク・ベネット氏でした。二人は、心より世界人類の平和と繁栄を祈り、またそれを実現できる者同士として即座に意気投合し、熱く語り合っただけです。最後に将来におけるカーギルと博士との提携を約束し、堅い握手をして別れました。



カーギル社の本社玄関前
(左：高嶋博士 右：ポール氏)



カーギル社内にて
(左：博士のニューヨークの友人、石川氏)



将来の提携を約束し、ベネット氏(右)
と堅い握手を交わす博士



アメリカのスタッフと記念撮影
(特別応接室内で)



VISITOR 1645

Dr. Yaehuide Takas
Hidemitsu Eart

Frank Bennett NAME DATE
A-167 8/15/2001



Artesian Capital
Frank J. Brenner

(952) 738-9388
(952) 245-6000 Fax
fbrenner@artesian.com
www.artesian.com
1530 Ullevi Ave. S.,
Suite 650
St. Louis Park, MN 55416

当日のゲスト証

ベネット氏の名刺

カーギル社での会議録

期 日：2001年8月15日 13:30～15:30

場 所：カーギル社コンツエルンヘッドオフィス、メモリアルルーム
(ミネソタ州ミネアポリス内)

※ 本社とは別に、カーギルファミリー（カーギル・ホイットニー・マクミリアン）の
ボードメンバーのみのコンツエルン本部である。参考までに、この会議には、次期
6代目社長就任予定の6歳の子供も参加した。

出席者：フランク・ベネット、ポール・モウ、シンシア・ブルームクイスト、マイケル・ス
ノー、高嶋康豪、石川裕康、ケントツカダ、高嶋秀年、下平智行

会議録：(概要)

(最初に対面の挨拶)

ベネット：カーギルのことはどの程度ご存じか？

高嶋博士：サテライトを駆使して、世界中の情報を握っている最大の穀物メジャー企業であ
ることを認識している。

ベネット：CIA や KGB よりも、我々の方が中国の情報を握っている (笑)。

高嶋博士：世界の穀物市場を貴社が操作し、安定化を図っていることを知っている。

ベネット：食糧、飼料、農業、トランスポート等すべてを含めれば、世界で NO.1 企業であ
ることを自負している。最近では、三菱とジョイントベンチャーを組み、穀物か
らプロテインを抽出したコーヒーシロップのプロジェクトを進めている。その
他、東京フーズ等を買収したり、ビタミンの開発を行ったり、特に食糧分野に力
を注いでいる。

高嶋博士：その辺の事情は、三井の担当部長から情報を得て聞いている。

ベネット：世界に対し、何ができるかが問題である。何よりも安全を第一に考えている。過
去に穀物の食中毒問題で弊社がたたかれたことがあるが、事前に DNA チェック
を行っていたので、無罪を証明できた。このぐらい慎重に安全対策を行っている。

(途中省略)

金儲けよりも、人類への食糧の供給が我々の使命である。と同時に、200 年続い
ているカーギルファミリーの絆を大切にしている。先を見越したビジネスを今後
展開していきたい。そのために、貴殿と協力して、人類世界のために貢献したい
と思う。

オズモニックス社での会議録

期 日：2001年8月15日 10:00～12:30

場 所：オズモニックス社ヘッドオフィス・会議室
(ミネソタ州ミネアポリス内)

出席者：ディーン・スパッツ、フィル、ポール・モウ、シンシア・ブルームクイスト、マイケル・スノー

高嶋康豪、石川裕康、ケンツカダ、高嶋秀年、下平智行

会議録（概要）：

（最初に対面の挨拶）

スパッツ：どのような戦略でアメリカをやりたいか？

高嶋博士：メジャー企業、政府とタイアップして、トップダウン方式で行いたい。

スパッツ：実績について詳細を聞きたい。

（ここで、日本の実績について説明）

スパッツ：プロジェクトの形態はどうなるのか。

（プロジェクトの形態について、ボードを用いて説明）

フィル：とにかく、米国で一つ実施を行い、それをデモンストレーションとしてお願いしたい。アメリカ南部のサンディエゴに我々の実施プラントがある。そこは化学廃液を処理しており、中身については、DMF、エタノール、イソプロピレン等である。

高嶋博士：実施のための情報を得る必要がある。アイテムについては、詳細を教えるので、これに従い、情報収集し、我々にフィードバックして欲しい。これがあれば、1ヶ月以内にプロジェクトのプロポーザルを行えるであろう。

スパッツ：早急に資料を揃えて、ポール・モウ氏を通じて提出する。

ミレニアム・グループでの会議録

期 日：2001年8月13日 13:00-16:00

場 所：ミレニアム・グループ社ヘッドオフィス・会議室

(ニューヨーク州アップステイト・キャッツキル)

出席者：ジョセフ、トーマス、マイケル、マットリユエ、デニス

高嶋康豪、石川裕康、ケンツカダ、高嶋秀年、下平智行、他

会議録(概要)：次頁参照

1) 登場人物

★ ヒンチー

- ・ 米国国会民主党下院議員。
- ・ ニューヨーク州出身の民主党下院議員として、実には職20年のキャリアを持つ。
- ・ 現在、環境委員を務め、特にG・E (ジェネラル・エレクトリック) 社のPCBハドソン川流出問題を重視し、この解決を国民に訴えている。

★ ジョセフ・ラドクリック

- ・ ニューヨーク、アップステイトのデイベロツパー。
- ・ 「ミレニアム・グループ」社、代表取締役社長。
- ・ 17歳より単身で事業を興し、地元の政・官・財との強いパイプを築きながらビジネスを展開してきた苦勞人。

2) 実施について

ヒンチー氏の政治力を利用しながら、最終的には、G・E社のPCBハドソン川流出問題解決の為の実施に至るまで戦略を立てる(マーケットは5億ドルとされている)。
その他、ミレニアム・グループを中心とした、無公害型焼却炉のビジネス展開等を行う予定。